

2020年度（令和2年度）常磐大学教員免許状更新講習【選択領域】授業概要

11月28日(土) 【選択領域1日目】

時間	担当者	内容
9:00-12:15	福田洋子	幼稚園教育の現状と展望Ⅰ
12:15-13:15		昼食休憩
13:15-16:30	佐藤賢一郎	幼稚園教育の現状と展望Ⅱ

11月29日(日) 【選択領域2日目】

第1グループ			第2グループ		
時間	担当者	内容	時間	担当者	内容
9:00-12:15	木村由希	子育て支援保護者対応	9:00-12:15	鈴木範之	子どもの音楽遊び教材研究
				船城 梓	子どもと言葉教材研究
12:15-13:15		昼食休憩	12:15-13:15		昼食休憩
13:15-16:30	鈴木範之	子どもの音楽遊び教材研究	13:15-16:30	木村由希	子育て支援保護者対応
	船城 梓	子どもと言葉教材研究			

「子どもの音楽遊び教材研究」、「子どもと言葉教材研究」は、いずれか1科目の選択となります。

12月6日(日) 【選択領域3日目】

第1グループ			第2グループ		
時間	担当者	内容	時間	担当者	内容
9:00-12:15	石崎友規	子どもの科学遊び教材研究	9:00-12:15	森慎太郎	子どもの運動遊び教材研究
				酒巻洋一	子どもの造形遊び教材研究
12:15-13:15		昼食休憩	12:15-13:15		昼食休憩
13:15-16:30	森慎太郎	子どもの運動遊び教材研究	13:15-16:30	石崎友規	子どもの科学遊び教材研究
	酒巻洋一	子どもの造形遊び教材研究			

「子どもの運動遊び教材研究」、「子どもの造形遊び教材研究」は、いずれか1科目の選択となります。

※ 2・3日目の選択科目（黄色部分）は、希望者数が定員を超えた場合は抽選を行い、同時間開講のもう一方の科目での受講をお願いすることになります。ご理解とご協力をお願いいたします。

※ 修了試験は、それぞれの授業時間の最後の10分間に行います。

※ 各授業時間内に15分間の休憩を予定しています。

各授業の概要

◆ 11月28日(土)

幼稚園教育の現状と展望Ⅰ [担当：福田 洋子]

2018年4月から、幼稚園教育要領改訂を踏まえた幼稚園教育が実施され、今年度は3年目となる。今回の改訂のポイントや幼児教育の現状、これからの教員に求められる高い資質等について具体的に事例を通して理解を深めていく。

幼稚園教育の現状と展望Ⅱ [担当：佐藤 賢一郎]

幼児教育の独自性として、環境を通しての教育と遊びを通しての総合的な指導について再考する。また、カリキュラムマネジメント・非認知能力・アクティブラーニングなど、注目されるワードを再確認し、その現状についても検討する。

◆ 11月29日(日)

子育て支援保護者対応 [担当：木村 由希]

前半は、子育て支援・保護者支援に関する講話を行う。後半は主にディスカッションを通して、様々な保育現場における子育て支援等の情報交換及び実践事例を取り上げ、参加者自身の意識とスキルの向上を目指す。

子どもの音楽遊び教材研究 [担当：鈴木 範之]

幼稚園教育要領等における領域「表現」のねらい・内容について、講義・演習を通して確認します。前半はあそびうたやパネルシアターなどの表現教材を紹介します。後半はパネルシアター製作や発表を通じて、保育の表現の世界を広げていきましょう。

子どもと言葉教材研究 [担当：船城 梓]

言葉領域教材／国語教材の一つとしての短詩形文学、特に「俳句」形式の活用をめぐって、その考え方や具体的な方法を、実践的に学ぶ。具体的には、講義と「写真俳句」制作演習（制作・合評・発表）を通じて、創作・味わい方・共有の各面について理解を深める。

いずれか
を選択

◆ 12月6日(日)

子どもの科学遊び教材研究 [担当：石崎 友規]

幼稚園における領域「環境」や小学校生活科、理科では、子どもたちが探究心をもって身近な事物や現象に関わることが重視されている。特に探究の基本となるのは、「比べる」活動である。講義と演習を通し、いくつかの科学遊びの教材をもとに、「比べる」活動の意義について考察を深めていきたい。

子どもの運動遊び教材研究 [担当：森 慎太郎]

講義と実技を行います。講義では幼児期の運動の重要性と幼児期運動指針を取り上げます。実技では、多様な動きを意識した運動を紹介しながら、実際に子どもの運動を体験してもらい、さらに指導法やサポートの仕方などのポイントを説明していきます。

いずれか
を選択

子どもの造形遊び教材研究 [担当：酒巻 洋一]

多様なメディアの発達に伴い、子どもを取り巻く環境が大きく変化している今日、造形活動を通して子どもたちが触れる素材や道具を改めて見直すとともに、子どもたちの造形活動をどのように計画し支援すべきかを考えていきたい。